

2021年ラウンド3レース7 古谷悠河が見事な独走劇を披露。今シーズン2勝目を飾る

Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ) 2021のラウンド3 レース7決勝が9月25日に富士スピードウェイで行われ、28号車の古谷悠河選手 (TOM'S YOUTH) が独走で今季2勝目を飾りました。



公式予選2から2時間後に始まった今週末の1レース目。スタートでは2番グリッドの8号車、三浦愛選手 (ARTA F111/3) が抜群のダッシュを決めて1コーナーをトップで通過します。しかし、古谷選手がすぐに追いつき、2周目のTGRコーナー (第1コーナー) で抜き返し、トップに浮上。そこからほぼ毎週に渡ってファステストラップを塗り替える走りを見せて、後続との差を広げていきました。

一方、5番グリッドからスタートした77号車、澤龍之介 (D'station F111/3) が序盤からポジションを上げ、3周目に三浦愛選手を抜いて2番手に浮上しましたが、レース中盤に入るにつれて三浦選手もペースを上げ、9周目以降は1秒以内に迫ってプレッシャーをかけていきました。2番手争いはレース終盤になるとさらに白熱。ファイナルラップに入ったところで三浦選手が2番手奪還のために仕掛けに行きましたが、澤選手が懸命にポジションを守り切りました。

結局、2番手に対して13.7秒もの大幅リードを築いた古谷選手が、独走でトップチェッカーを受け、ツインリンクもてぎで開催されたラウンド2 レース5に続き今シーズン2勝目を飾りました。2番手には澤選手が入り、FRJデビュー戦で初表彰台を獲得。3位には三浦愛選手が入りました。

マスタークラスはスタートでクラストップに浮上した30号車、DRAGON選手 (B-MAX ENGINEERING FRJ) が順調にリードを広げていきましたが、レース終盤になって右後輪にトラブルが発生。これで一気にペースを落とすことに。そこにクラス6番手スタートから2番手に浮上して追い上げていた4号車の今田信宏選手 (JMS RACING with B-MAX) が最終ラップのGRスーブラコーナーで逆転し、そのままフィニッシュ。マスタークラスで今シーズン初優勝を飾りました。2位には39号車、田中優暉選手 (ASCLAYIndサクセスES)、3位にはDRAGON選手が入りました。

◆レース7 優勝 古谷悠河選手コメント

「スタートでは、ホイールスピンが多くて、うまくいかなかったです。でも、そこからは焦らず冷静に逆転できました。最終コーナーを良い形で立ち上がられてスリップストリームをうまく使えました。トップに立ってからは、次に繋がるように、走行ラインを少し変えてみたりとか、いろいろなことにトライをしていました。トップで後続を大きく引き離してチェッカーを受けるレースをしたいなと思っていたので、それを達成することができたのかなと思います。今回はTOM'Sの谷本社長もいらっシャっていていたので、その中で独走で勝てて本当に良かったです。残る2レースも油断せずに連勝したいなと思います」

◆レース7 マスタークラス優勝 今田信宏選手コメント

「6番手スタートで2番手に上がって、最後はDRAGON選手もトラブルがあったようでペースが落ちている中でトップ浮上ということで、最後に優勝が転がり込んできたなという感じでした。ただ、本当は実力で追い抜いて勝ちたかったという思いはあります。植田選手の追い抜きや田中選手とのバトルもありましたけど、レース前半のペースをもうちょっと上げていくことができれば、また展開が変わっていたかもしれません。2レース目はクラストップからのスタートなので、そのままクラス優勝したいですね」

以上